

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

マラヤン・バンキング・ベルハッド（証券コード：-）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A+
格付の見通し	安定的
債券格付	A+

■格付事由

- マレーシア最大の銀行で、24年9月末の連結総資産は1兆506億リンギット（約37兆円）。子会社を通じて証券や保険などの非銀行業務も手掛けており、ASEAN地域において幅広く事業を展開している。格付は、国内における堅固な事業基盤、収益源の分散と高い収益力、良好な流動性ポジション、高い資本水準を反映している。一方、所在国の規制環境や金融経済情勢の影響を受けやすい銀行業の特性を反映し、格付はマレーシアのソブリン格付（外貨建長期発行体格付：A+/安定的）の制約を受けている。世界経済の先行きに不透明感はあるが、主要市場であるASEAN地域の経済は底堅く、今後も一定の利益と健全な資本水準を維持できるとJCRはみている。以上より格付を据置き、見通しを安定的とした。
- 国内(24年9月末の貸出金構成比約62%)では個人、中堅・中小企業、大企業にわたる幅広い顧客層を有し、堅固な銀行業務の基盤を築いており、預貸シェアはそれぞれ約19%で安定している。傘下に国内最大のイスラム金融の子会社も擁し、市場が拡大するイスラム金融の分野で優位性を確保している。国外では、シンガポール（同：26%）において外資系大手適格フルバンクに位置づけられ、リテールバンキング、コマース・コーポレートバンキングの双方で基盤を確立している。インドネシア（同：5%）では比較的規模の大きい地場銀行を子会社にもつ。非銀行業務をみると、保険子会社のEtiqaが国内大手であるほか、証券・投資銀行業務でもASEAN地域を中心に国内外でプレゼンスを有し、収益源の分散が図られている。
- 業績は好調である。23/12期の当期利益は過去最高の96億リンギットに達した。25年度までの中期経営戦略「M25+」のもとデジタル投資を加速し、オンライン取引の拡充やクロスセルの強化を図ってきたが、その成果が出ているとみている。24/12期は、調達コストの上昇による純金利マージンの下落が続いているが、貸出資産の堅調な増加、手数料収益を中心とした好調な非金利収益によりカバーされている。与信費用も引き続き抑制され、24/12期第3四半期（9か月）の当期利益78億リンギットと、前年同期を上まわった。
- 貸出資産の質は良好な水準を維持している。インドネシアで不良債権比率がやや高いが、グループ全体の不良債権比率は24年9月末1.26%（23/12期末：1.34%）に留まった。与信費用比率は24/12期第3四半期（9か月）で26bpと低位に安定している。
- 24年9月末のグループ連結普通株式等Tier1比率は14.7%と良好な水準を維持している。業績は堅調で引き続き健全な資本水準が保たれるとみている。国内及び主要国外拠点で預金が潤沢に確保されており、資金調達基盤、流動性ともに堅固である。24年9月の連結ベースの預貸率は93.8%、流動性カバレッジ比率は132%であった。

（担当）増田 篤・堀田 正人

■格付対象

発行体：マラヤン・バンキング・ベルハッド（Malayan Banking Berhad）

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A+	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第5回円貨社債（2019）	60億円	2019年5月21日	2029年5月21日	0.58%	A+
第7回円貨社債（2020）	133億円	2020年2月13日	2025年2月13日	0.280%	A+
第8回円貨社債（2020）	9億円	2020年2月13日	2030年2月13日	0.472%	A+
第10回円貨社債（2022）	5億円	2022年2月4日	2027年2月4日	0.303%	A+
第11回円貨社債（2022）	22億円	2022年2月4日	2032年2月4日	0.512%	A+

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2025年2月4日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：杉浦 輝一
主任格付アナリスト：増田 篤
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） マラヤン・バンキング・ベルハッド（Malayan Banking Berhad）
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル